

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

5: たいへんよくできた
4: よくできた
3: できた
2: ややできなかった
1: できなかった

子育て支援

Table with 2 columns: 知事 (知事) and 備考 (備考(具体的なエピソードなど)). Rows describe various childcare support activities like staff training, parent communication, and facility improvements.

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

5: たいへんよくできた 4: よくできた
3: できた 2: ややできなかった 1: できなかった

安全

Table with 2 columns: 知事 (知事) and 備考 (備考(具体的なエピソードなど)). Rows cover safety topics such as environment management, food safety, disaster prevention, and fire safety.

自己評価 【食育・健康・安全・子育て支援】

<令和4年度> とねの会こども園

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

5：たいへんよくできた 4：よくできた
3：できた 2：ややできなかった 1：できなかった

健康

Table with 2 columns: 結果 (Result) and 備考 (備考 (具体的なエピソードなど)). Rows include categories like 健康状態や発育及び発達の状態の把握, 健康増進, 疾病等への対応, and 健康.

自己評価 【食育・健康・安全・子育て支援】

<令和4年度> とねの会こども園

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

5：たいへんよくできた
4：よくできた
3：できた
2：ややできなかった
1：できなかった

食育

Table with 2 columns: 結果 (Result) and 備考 (備考 (具体的なエピソードなど)). Rows include categories like 食育, 食育, 食育, 食育, 食育, 食育, 食育, 食育, 食育.

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこともたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5: たいへんよかったです
- 4: よかったです
- 3: やesました
- 2: やesできなかった
- 1: できなかった

ほんび

		結果	備考（具体的なエピソードなど）
3歳以上の園児	(1) 心身の健康に関する領域「健康」		
	保育教諭等や友達と触れ合い、安心感をもって行動する	4	子どもたちと平等に接して関わることを意識して過ごすことができた。
	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	4	一年間を通して運動遊び等を取り入れた。リレー・マラソン・サーキットを子どもたちが意欲的に取り組む姿が見られるようになった。
	遠くで戸外で遊ぶ	5	保育室前にも多くの遊び場が出来て子どもたちも繰り返し考えながら楽しむ姿が見られた。
	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む	5	ラボ、秘密基地作り、標識マップ、光、音、電気等様々な活動を通して子どもの得意を引き出すことができた。
	保育教諭等や友達と食べ物を楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ	4	お昼から収穫までの野菜の観察や、日本の郷土料理など食を身近に感じることでより興味関心を持つことができた。
	健康な生活のリズムを身に付ける	3	時計の数字の横に分数を示す数字を貼ることで、時計を見て生活の流れを理解し過ごすことができた。（例：1の横に5、2の横に10、3の横に15）
	身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする	3	衣類の調整では暑い日ジャンパーを着ている子もいたので、脱ぐよう促すことが多かった。新型コロナウイルスの影響もあり、食事は朝食とした。
	とねの会こども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する	3	自分のロッカーや引き出しの中の整理を自分で行うよう促した。週に1度保育教諭と一緒に確認することで整理整頓ができるようになった。
	自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う	3	手洗いうがいを丁寧にを行うようこまめに声掛けをしているが、日にちが経つと適当にすます子が増えてしまったので改めて手洗いうがいの仕方を見直す場を設けた。
	危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動する	4	月に一度の避難訓練を機に、子供たちと一緒に危険箇所等を確かめた。
	(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」		
	保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう	4	戸外活動では保育教諭とリレーをしたほか、屋内では一緒にフルーツバスケット等のレクリエーションを行った。保育教諭と一緒に行うことで子どもたちもより楽しむ姿が見られた。
	自分で考え、自分で行動する	3	初めの頃はいつも保育教諭に確認していたが、自分で考える経験の場を多くすることで自信に繋がって自分で行動するようになった。
	自分でできることは自分でする	4	年長のため大体のことは自分でできるが、音読している子に対して先にできる子が全てやっておくことが多々見られた。
	いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	5	日頃遊んでいる色水や野菜の書き込みを運動会に取り入れた。それにより自信をもってやり遂げることができた。
	友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う	4	チームごとの競争では、勝ち負けの結果に悔しがって涙を流す姿も見られた。
	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	4	園生活で友達同士のトラブルがあった場合、子どもたち同士で意見を出し合って解決できるようになってきている。
	友達よきように気付き、一緒に活動する楽しさを味わう	3	自分の色作りの中で様々な色が出来上がり、友達同士で褒め合う姿が見られた。
	友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする	3	運動会のマーチングでは一つの作品をみんなで協力し合い、練習も意欲的に取り組む姿が見られた。
よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する	2	ジャングルラングでは事故防止のため走ることを禁止しているが中々定着せず、遊びの中でつい走ってしまう子が多かった。	
友達との関わりを深め、思いやりをもつ	4	手がふさがっている子がいると自ら進んで座を譲ってあげたり、椅子を引いてあげる姿が見られた。	
友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気付き、守ろうとする	4	休憩時間は隣のめだか箱が壊れているため、静かに遊ぶ約束をした。声が大きくなってしまった子に友達同士で声を小さくするよう教え合う姿が見られた。	
共同の道具や用具を大切にし、皆で使う	3	初めの頃は外で遊んだ後に片付けをする子が一人二人しかいなかったが、全体で片付けを促すことで年度の後半では全員で片付けられるようになった。	
高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ	5	加わった実習生と一緒に遊びを楽しむ姿が見られた。	

		結果	備考（具体的なエピソードなど）
3歳以上の園児	(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」		
	自然に触れて生活し、その大きさや美しさ、不思議などに気付く	3	夏には泥遊び、水遊びを楽しんだ。水遊びの際に水の中に虹ができることや、冬には厚さが様々な氷ができることに興味を持っていた。
	生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	3	水遊びで色々な道具に触れ、水の流れや動きを不思議に思い、自分たちなりに考える姿が見られた。
	季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く	3	暑い時は洋服を調整し、こまめに水分補給をしたり冬には上着を着たりと自分たちで行った。
	自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ	4	増桂を見つけて見立て遊びをしたり、顕微鏡で観察して楽しんだ。
	身近な動物植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする	4	田んぼに稲を植える、観察した際にオタマジャクシやホウネンエビを見つけ、飼育を始めた。飼育環境を自分で調べる様子も見られた。
	日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ	3	給食で郷土料理を食べることで、その地域に興味を持ったり、行事に関係した遊びを楽しんでいた。
	身近な物を大切にする	3	遊戯した当初は玩具を投げたり、落したまま放置することが多かったが、繰り返し声を掛け続け自分で気づいて片付けるようになった。
	身近な物や道具に興味をもつ関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	4	野菜の書き込みをラゴで体験したことで、収穫した野菜が水に浮かぶのか沈むのか考えるようになった子もいた。かぶのように半分は物を見てみたいと声が上がっていた。
	日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	4	カレンダーや時計の数字を数えたり、出席確認で簡単な引き算をする姿が見られた。切れている画用紙を思い付いた物に見立てて会話を楽しんでいた。
	日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ	4	年度の後半になると文字が読める子が増え、絵本を友達同士で読んでいる姿も見られた。散歩に出かけた際には標識を探して保育教諭に尋ねていた。
	生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ	3	様々な図鑑を見て情報を得たり、散歩に出かけた際に近くの施設や建物に興味を持ち保育教諭に尋ねていた。
	とねの会こども園内外の行事において国際に親しむ	3	運動会では興味のある国の国旗を描いた。自分たちが住んでいる日本とそれ以外の場所（国）があることを認識できたようだった。
	(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」		
	保育教諭等や友達との言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする	4	最初の頃は自分の思いや出来事話したい気持ち強い子が多かったが、相手の話を聞きながら質問したり会話のやり取りに発展することが多くなった。
したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する	4	休みの出来事や、日中友達とのやりとりで楽しかったことを友達や保育教諭に順番に話すことができた。	
したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする	4	次の活動を伝える際に疑問に思ったことを保育教諭に尋ねたり、友達同士に伝える姿がみられた。	
人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	3	製作をしている途中、手順に戸惑っている子に他の子が教える様子が見られ、協力して行うことができた。	
生活の中で必要な言葉が分かり、使う	3	遊戯当初は状況の一部を伝えるだけだったが、繰り返し言葉を引き出すことで、その状況からどうしてほしいのか自分の言葉で伝えられる子が増えた。	
親しみをもって日常の挨拶をする	4	最初の頃は挨拶から挨拶をしていたが、自分から出来るようになった。	
生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	3	テレビやYouTube等から見た言葉を楽しんでいることが多く見られた。実際に会話をしている時の言い方を自分たちで考える時間を設けた。	
いろいろな体験を通じてイメージや言葉を整かにする	4	実験遊びでどんな材料を使うのか、実験の結果どうなるのか一人ひとりが想像できるようにし、言葉で説明してもらった。	
(5) 感性と表現に関する領域「表現」			
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ	4	植物に触れて遊んだ時に同じ色の花や葉でも紙にこすりつけてみると色の出方が違ったり、葉の表面の感触（ふわふわ、チクチク等）を楽しんでいた。	
生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする	4	色水遊びで混ぜた時の色の変化や量の配分で明度が違うことに気付いたり、太陽の光が反射して映る様子にも興味を持っていた。	
様々な出来事の中で、感動したことを伝えようとする	4	一人ひとりが感じたことや思ったことに対して自信を持って時間をかけて話を聞き受けとめることで子どもたちからの言葉が増えていった。	
感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にいかたり、つくったりなどする	3	行事や日々の出来事を自分たちで自由に描き表現を広げられるよう材料を追加し、子どもたちが表現を楽しめるようにした。	
いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ	3	自分のイメージした物を形にして様々な素材を使い、試行錯誤しながら作ることを楽しんでいた。	
音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう	4	新しい歌を積極的に覚えたり、色々な曲に合わせて体を動かして楽しんだ。	
かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする	4	友達同士で作る過程を見せ合ったり、話しかけたりして作り、完成した物を身につけてごっこ遊びをする姿が見られた。	
自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう	3	普段、日常生活の中で見ている物になりきり友達同士ではなし内容を展開していた。	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5: 十分に出来た
4: やや出来た
3: できた
2: ややできなかった
1: できなかった

めだか

Table with 3 columns: 評価 (評価), 基準 (具体的なエピソードなど), and 内容. It contains two main sections: (1) 心身の健康に関する領域「健康」 and (2) 人と関わりに関する領域「人間関係」. Each section lists various activities and their corresponding evaluation scores and descriptions.

Table with 3 columns: 評価 (評価), 基準 (具体的なエピソードなど), and 内容. It contains two main sections: (3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」 and (4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」. Each section lists various activities and their corresponding evaluation scores and descriptions.

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5: たいへんよくできた
- 4: よくできた
- 3: できた
- 2: ややできなかった
- 1: できなかった

ひばり

		結果	備考 (具体的なエピソードなど)
3歳以上の児児	(1) 心身の健康に関する領域「健康」		
	保育教諭等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する	4	登園時には心地のいい挨拶を心がけ、泣いたり不安そうにしている子にはその気持ちに寄り添い安心できるように声掛けや仲立ちをした。
	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	4	ジャンプラミングやけん山、鉄棒・平均台のサーキット等で体の使い方を覚えかけっこやマラソンで体力をつけたり楽しく体を動かす活動に取り組めた。
	遠くで戸外で遊ぶ	5	天気のいい日には毎日戸外に出て体を動かす気持ちの良さや戸外の空気に触れる心地よさを味わう活動に取り組めた。
	様々な活動に楽しみ、楽しんで取り組む	3	室内でははまのりのりを用いた季節の製作や劇あそび等、戸外では道具やかけっこ、水・雪遊びなどを楽しみながら心と体を動かしながら遊べることができた。
	保育教諭等や友達と食べることを楽しむ、食べ物への興味や関心をもつ	5	給食時には友達との会話を楽しみながら苦手なものにも挑戦し、食事を楽しむことができた。畑で作った野菜やクッキングを通して食べ物への興味関心にもつながった。
	健康な生活のリズムを身に付ける	4	戸外で心地の良い空気を感知しながら体を動かす「動」の時間と給食や午睡でゆったり安心して過ごす「静」の時間を意識できるよう声掛けをした。
	身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする	4	声掛けを続けることで入室したら手洗いうがいをする、食べこぼしがあったら着替えをするというように自分で考えて行動できる子が増えた。
	とわの会こども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する	3	活動をする前に見通しが持てるように声掛けをすることで、次の活動の準備や身の安全など自分で取り組むことができた。
	自分の健康に関心をもつ、病気の予防などに必要な活動を進んで行う	3	手洗いや歯磨きを通して学んだことを手を洗う時に確認しながら行ったり、汗をかいたら拭いたり着替えたりするなど健康に過ごすための行動に取り組めた。
	危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分り、安全に気を付けて行動する	4	道具を使う時には事前に約束を確認したり、散歩に行ったり時には車の有無を自分の目で確かめたり、安全に生活できるよう伝え、自分のことは自分で守るようにした。
	(2) 人とのかかわりに関する領域「人間関係」		
	保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう	4	友達との関わりを仲立ちしたり、保育教諭をもととして友達と話したり遊んだりして友達や保育教諭と過ごす心地よさを感じられるよう援助した。
	自分で考え、自分で行動する	3	子どもたちの思いを受け止め、どのようにしたら良いのか共に考えることで子ども自身も自分で考えたり行動したりする意識につながった。
	自分でできることは自分でする	4	自分でできることも増え「先生見て！」という子が多かったが、数名は「できない」と言ってもすぐに諦めてしまう姿もあった。
いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	3	気に入った遊びをみつけ、友達と一緒に物事を進めていく姿が見られた。	
友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共有し合う	4	友達との関わりも増え、一緒に遊ぶ中で楽しい気持ちや共感しあう姿が見られた。	
自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	2	玩具の貸し借りがうまくいかず、言葉よりも先に手が出てしまったりトラブルになることが見られた。	
友達よきに関わり、一緒に活動する楽しさを味わう	4	友達の合う友達をみつけ「一緒に遊ぼう」と声を掛けたり、一緒に活動することを喜んでくれた。	
友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする	4	遊びの中で一緒に展開していきたり、友達と協力して物事を進めていく姿が見られた。	
よいことや悪いことがあることに気付く、考えながら行動する	2	友達を叩いたり、いじわるをしてはいけないと分かっていても手を出してしまう子が見られた。	
友達との関わりを深め、思いやりをもつ	3	友達の合う友達を見つけて楽しんで遊ぶ姿があったが、玩具でのトラブルでは自分の思いだけで遊ぶ場面が多かった。	
友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気付く、守ろうとする	3	友達と遊んでいて楽しくなりすぎてしまい、室内を走りまわってしまう子がよく見られた。	
共同の道具や用具を大切に、皆で使う	3	玩具や共有のものを雑に扱ってしまったり投げたりする子も見られた。みんなで使うものと分かってはいるがそれが難しい子もいた。	
高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に関心をもつ	3	散歩にでかけた時にすれ違う人や近所の方に自分から声かけ挨拶することができた。	
		結果	備考 (具体的なエピソードなど)
(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」			
自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く	5	春ではきれいに咲く花をたくさん鑑み、冬では雪や氷が溶けてしまう不思議さに気付いたり、寒くても氷が溶けない日とできる日があることに気付いた。	
生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	4	水遊びでは水道管をつなげて水の出口をさがしたり、冬ではなぜ氷が溶けるか等自然に興味や関心を持てる子が多かった。	
季節により自然や人間の生活に変化があることに気付く	4	汗をかいたら服を脱ぎ、寒かったら上着を着て温まったり脱ぐなど、衣服の調節ができるようになった。	
自然などの身近な事象に関心をもつ、取り入れて遊ぶ	5	秋の自然遊びでは落ち葉や木の葉を使いたらんどっこで色々な料理を作った。落ち葉の上で寝転んでみたり全身を使って遊ぶことができた。	
身近な動物や植物に興味をもつて探し、生命の尊厳に気付く、いたわったり、大切にしたりする	5	カブトムシのお世話では水をかきかけたりエサが減っているか等気にしたりして観察し楽しむことができた。また、死んでしまった時は優しく埋葬された。	
日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ	5	夏祭り、ハロウィン、クリスマス、お正月、節分など行事以外でも家庭で行った行事について話をしてもらえる子が多くなり喜びを感じていた。	
身近な物を大切に扱う	4	道具や玩具の使い方を確認しながら行うことができたことで物を大切にしよう、使おうと意識している。数名がクレヨンのおぼろけが壊れてしまった子もいる。	
身近な物や道具に興味をもつて関わり、自分なりに比べたり、調子付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	5	砂場では山を作り始めると対抗してどちらの山が高くなるのかとゲームのように発展して楽しむ姿が見られた。	
日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	5	製作の中で丸、三角、四角を用いたことで理解し、描けるようになりたいと練習する子もいた。数では一緒に数えたり「すじのうた」を取り入れている。	
日常生活の中で簡単な言葉や文字などに関心をもつ	4	ひらがなを読める子もおり、そのまもとアップリコンについて絵や文字で説明した掲示物を貼ったり、読もうとして分からない文字を聞こうとする姿が見られた。	
生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ	4	運動会や保育参加の前家族で公園へ行き「ツバメ」や「前回り」を鉄棒で練習した等、家族でかけた話をよく聞かせてくれた。	
とわの会こども園内外の行事において国語に親しむ	2	園以外では園庭に触れることがあまりなく興味を持ってなかった。一部の子は園庭に親しんでいるので園外で知ったことをその程度話す姿もあった。	
(4) 言葉の運用に関する領域「言葉」			
保育教諭等や友達との言葉や話に興味や関心をもつ、話しきりをもって聞いたり、話したりする	4	人前で話そうという心が弱かったが、友達の前で話す時間を設けたことで聞く・話すという心の苦手意識がなくなっていった。	
したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する	4	～した、～だった、と話して聞かなくても、「それでどうしたの?」「どうだった?」と更に聞いてみると言葉を探しながら話せるようになった。	
したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする	4	戸外ではフワフワドーム、雨の日は粘土遊びや口々に言う姿が見られた。製作活動では始める前から「わからない」と諦める子が多く、自分で考える時間を設けた。	
人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	3	新しい折り方や折り紙の作り方を教わると、保育教諭の言葉の説明をよく聞いて折り方のわからない友達に対し、その子がわかるように丁寧に説明していた。	
生活の中で必要な言葉が分り、使う	4	友達とのやりとりの中で「教えて」「ありがとう」「こうやってみるのどう?」など、お互いに気持ちを伝えながら生活する姿が見られた。	
話しきりをもって日常の挨拶をする	5	毎日笑顔で挨拶し、状況に合わせてお礼や謝罪の言葉を使うなどお互いに気持ちよく生活しようとする姿勢が感じられた。	
生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	3	添削した原稿はうまく説明できなかったり、会話でたくさん話もあつたが今はスムーズに行えている。テレビ等の影響で不適切な言葉を発する子に対し「だめだ」と注意する姿も見られた。	
いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする	3	夏祭りではお土産さんとお客さんとしてやり取りを楽しむ姿があった。「いらっしやいせ」「〇くさい」「100円です」など普段のお買い物の様子が生かされていた。	
(5) 感性と表現に関する領域「表現」			
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなど楽しむ	4	泥んこ遊びでは砂や土に水を入れる割合によって固まることや、トトロになることを楽しみきれいな素材の上で転がったり流れる様子を目で見て何度も繰り返して遊んでいた。	
生活の中で楽しいものや心を動かす出来事や体験、イメージを豊かにする	4	寒い日が続いたことで冬にしかけておいた氷作りが成功し、それを日光に照らしてみたり、おまごごと、レスタラッコを展覧長時間展示して取り組んでいた。	
様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう	4	移動動物園ではたくさんの動物と触れ合う姿が見られ、エサやり体験やお話をすることで愛情が芽生えた。命の大切さを共有・共有することができた。	
感じること、考えたことなどを言葉や動きなどで表現したり、自由にいたり、つくったりなどする	3	リトミックでは自分が感じたまま自由に動いたり、何かになりきって体全体で表現していた。粘土遊びでは友達と共通のものを作り、比べたりやり取りを楽しんでいた。	
いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ	4	秋の自然遊びではどんぐりや木の葉を使ってマラカスを作り、その音を楽しんだり落ち葉を遊びに取り入れた。羽などには仕上げを付けて楽しんで遊んでいた。	
音楽に親しみ、歌を取ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなど楽しむ姿を味わう	4	普段の生活の中であまごっこやリズム打をしたり、歌に合わせて楽器遊びをすることで自然と手先や体を動かすことが面白くなり音感やリズム、身体能力を伸ばすことができた。	
かいたり、つくったりなどを楽しむ、遊びに使ったり、飾ったりなどする	3	夏祭りごっこでは自分の好きなキャラクターのお面作り(色塗り)をしたり自分たちで作った魚を釣って楽しんで親しみを込めて取り組むことができた。	
自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう	5	劇ごっこではイメージを膨らませながら自分のやりたいたい役になりきり、演じることができた。セリフを大きな声で行ったり体全体で表現することができたら満足度が高かった。	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5: たいへんよくできた
4: よくできた
3: できた
2: ややよくできた
1: できなかった

うさぎ

Table with 2 columns: 観察 (Observation) and 備考 (Remarks). Rows include categories like (1) 心身の健康に関する領域, (2) 人とのかかわりに関する領域, (3) 身近な環境とのかかわりに関する領域.

Table with 2 columns: 観察 (Observation) and 備考 (Remarks). Rows include categories like (4) 言葉の獲得に関する領域, (5) 感性と表現に関する領域.

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5: たいへんよくできた
- 4: よくできた
- 3: できた
- 2: ややできなかった
- 1: できなかった

ちどり

	結果	備考(具体的なエピソードなど)	
満1歳以上満3歳未満の児	(1) 心身の健康に関する領域「健康」		
	愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする安定感をもって生活をする	5	一人ひとりの気持ちに寄り添う関わりを日々行うことで保育教諭との信頼関係が築かれ、様子に応じた言葉を掛けたり欲求を受け取って安心して過ごせるようにした。
	食事や午睡、遊びと休息など、とねの会こども園における生活のリズムが形成される	5	天気の良い日は積極的に戸外へ出かけ、体を動かすなどして十分に遊んだ。それによりしっかりと食べられたり、眠れたり心身共に満足感のある生活を送れるよう配慮した。
	走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ	4	毎朝、学年全体で体操を行い、身体をのびのび動かす楽しさを味わえた。運動能力も高まり、様々な運動遊びに興味をもち、意欲的に挑戦する姿がみられている。
	様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ	4	食材やメニューに関心もてるような声掛けを行い、食事が楽しいと思えるような雰囲気作りや個々に合わせた援助をしていくようにした。
	身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く	4	トイレ後や食事前など自ら手を洗う習慣が身についてきている。「きれいになったね」「さっぱりしたね」等の声掛けを行い清潔にする気持ち良さを感じられるようにした。
	まわりの人の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする	5	「やってみよう」と自ら思えるような助ましの声掛けや場面に応じたコツを分かりやすく伝え、自分で出来た達成感を感じ自信へと繋がるようにした。
	便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる	4	安心して便座やオムルに座れるようゆったりとした雰囲気作りや声掛けを行い個々に応じたトイレトレーニングで排泄の成功体験を積み重ねていくようにした。
	(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」		
	まわりの人との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる	5	保育教諭や友達と生活を共にし、色々な経験を共有していくことで安定した関係を築き安心して過ごすことができた。
	保育教諭等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす	5	子どもたちの思いに寄り添い、愛情をもって関わることで自分の思いを出せるようになり、気持ちが満たされて安心して過ごすことができた。
	身の回りに様々な人がいることに気づき、徐々に他の園児と関わりをもつて遊ぶ	5	クラスだけでなく学年で活動することで様々な人と関わりが持てるようになり、遊びの中で友達への関心も持てるよう援助した。
	保育教諭等の仲立ちにより、他の園児との関わり方を少しずつ身に付ける	4	友達への興味が出てきている。自分の思いだけで関わるのでトラブルになる時もあるが、保育教諭が仲立ちし必要な言葉を伝えたり相手への気持ちにも気づき、一緒に楽しむ楽しさが増えようになっている。
	とねの会こども園の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気づく	4	生活や活動をする中で約束事があることを分かりやすく知らせ、守ることの大切さを伝えその中で過ごしていきけるようにした。
	遊びや生活の中で、自分の身近な人の存在に気づき、親しみの気持ちを表す年長児や保育教諭等の真似をし、ごっこ遊びを楽しんだりする	4	園生活の中で色々な人との関わりをもち、家族以外の人との信頼関係を築いていくことで身近な人の存在に気づけるようにした。行事等を通して年長児の姿を見て真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。
(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」			
安全で活動しやすい環境での探求活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする	4	戸外遊びや散歩を通して身近な自然に触れることができた。突如に見たり、触れたりすることで「大きい」「ふかふか」など感じたことを伝えられるようになる。	
玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ	5	児童の玩具から季節や発達に応じた玩具や遊具を取り入れた。絵本では図鑑の様な絵や写真を多く取り入れたものを好んでいた様子だった。	
身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気づく	4	遊びや読み聞かせなどの経験を積むことで、形や色、大きさなどの違いに気づけるようになってきている。	
自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ	4	個人のマークを用直し、視覚的に区別がきやすいうように配慮した。食事スペース、遊びスペースを明確に分けることで何をやる場所かを理解しならが過ごせた。	
身近な生き物に気づき、親しみをもつ	3	観察ケースでカタツムリやカエル、かまきりなどの身近な生き物を飼育することで興味を持って関わる姿がみられた。	
近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ	4	園行事に参加するだけでなく、室内装飾や絵本の読み聞かせや製作活動を通して更に親しみや関心を持つことができた。	
満3歳以上満6歳未満の児	(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」		
	保育教諭等の応答的な関わりや話し掛けにより、自ら言葉を使おうとする	5	玩具の貸し借りの際「どうぞ」「ありがとう」、約束事や生活の中で感じたことなど簡単なやりとりから少しずつ言葉を使え、自分の体験したことや気持ちなど保育教諭や友達に伝えることができるようになっていく。
	生活に必要な簡単な言葉に気づき、聞き分ける	4	活動前に約束事を話すと、その言葉に応じて返答したり行動をとるなどし、守るべきことが理解できている。またトラブルになった時には「ごめんね」「いいよ」など場面によって使い分けができる。
	親しみをもって日常の挨拶に応じる	3	朝の会・帰りの会、登園時などに挨拶をすることで子どもたちから「おはよう」と保育教諭に伝える姿もみられるようになってきている。
	絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ	5	絵本の読み聞かせでの時間を設けることで絵本の言葉を使え、保育教諭と一緒に言葉を使ってみたり、絵本の動きを真似て楽しむ姿が見られた。
	保育教諭等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ	4	おままごと遊びの際、「どうぞ」「熱いよ」「フォーク使って」など保育教諭や友達とのやりとりを楽しみながら行っていた。
	保育教諭等を仲立ちとして、遊びや生活の中で友達との言葉のやり取りを楽しむ	3	ブロックや積み木などで一人で作る山や物を作りたい時など、子ども同士が協力できるように「一緒に作ってみたら?」「もっと大きくしよう」など言葉かけをする友達と相談しながら遊ぶ姿が見られた。
	保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする	3	活動の前や活動ごとの区切りの際呼吸がけたり、子どもの興味をひく物を見せたりすることで話に興味を持ち、保育教諭と応答しながら話す、聞くことができる。
	(5) 感性と表現に関する領域「表現」		
	水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れ楽しむ	5	四季を通して水、砂、土に触れ感覚を味わいながら遊ぶことができていた。製作では様々な素材や技法を用いて作る楽しさやできた喜びを感じられた。
	音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ	5	行事や季節の曲に合わせて踊ったり体操を日々繰り返す行うことで、音楽に合わせてリズムをとったり体を動かす楽しさを味わえるようにした。
	生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気づいたり、感じたりして楽しむ	4	遊びの中やクッキングなどで五感を感じられるよう働きかけを行い、子どもたちの気づきに共感していくようにした。
	歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする	5	朝の会で季節の歌を簡単な振りをつけて歌ったり、全身を使う歌遊びをするなどして楽しめるようにした。
	保育教諭等からの話や、遊びや生活の中で出来事を通してイメージを豊かにする	4	色々な体験をし、保育教諭と一緒に思いを共有し伝え合うことで心に残り、次の活動へ結びついたり、イメージが広がるような働きかけを行った。
	遊びや生活の中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する	4	おままごと遊びでは、料理を作ってお皿に並べたり、買い物かごを持って買い物ごっこをしたりと自分の経験を遊びの中で自分なりに表現し楽しんでいる姿が見られた。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5: たいへんよくできた
- 4: よくできた
- 3: できた
- 2: ややできなかった
- 1: できなかった

ひよこ

	観察	備考 (具体的なエピソードなど)	
乳 児 園 の 開 発	(1) 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」		
	愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする	5	子どもたちが安心して心地よく過ごせるようスキンシップを多く取り入れたり、受容的・応答的な関わり、安全な環境構成、興味のある玩具の用意など配慮してきた。特に慣らし保育中は個々に合わせて関わったことで園生活に早く慣れる姿が見られた。安心できる環境にできたからこそ、子どもたちが興味関心を周囲に向けられている様子も見られている。
	一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす	5	身体的能力が著しく成長する年齢のため、自由に体を動かせるよう広い空間を確保し足元に玩具が落ちていないよう注意を払った。また、沢山体を動かせるよう工夫してきたことにより、子どもたちも意欲的に安全に体を動かさせている。
	個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ	4	成長と共に味覚が発達し、好き嫌いが見られるようになった。苦手なものは無理させないよう配慮する中で、食べず嫌いにならないよう一口だけでも食べられるよう援助した。一口食べられた時はたくさん褒め、自信をつけられるように関わった。
	一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする	5	入園当初から個々に合わせて午前睡や午睡を行った。体力に合わせて入眠することで、その後の活動で元気に体を動かしたり興味関心が広がっていく姿が見られた。またせいじょうに合わせて午前睡を短くするなど調整を行い午睡をゆっくり休めるよう配慮した。
	おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる	5	オムツ交換の際や衣服の着脱の際、たくさん掛けを行いオムツを交換する気持ち良さや衣服を着脱する意味を伝えてきた。子どもたちも少しずつ不快を解消し、排泄したり履が汚れた際は保育教諭に伝えるよう成長した。
	(2) 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」		
	園児からの動き掛けを踏まえて、応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす	5	園児からの関わりや欲求に応答し、自分を見守ったり沢山関わってきた。子どもの興味や意思を尊重してきたことで、子どもたちも安心して挑戦しようとする姿に繋がった。また成長とともに自信が強くなり保育教諭にどんどん主張するたくましい姿に繋がった。
	体の動きや表情、発声、なん語等を促し受け止めてもらい、やり取りを楽しむ	5	受容的・応答的な関わりから愛着関係も深くなり早い段階で表情豊かに保育教諭と関わろうとする姿が見られた。子どものまもりを代弁し受け止めていくことで、指差しや喃語などでやり取りを楽しむ姿が見られている。
	遊びや生活の中で、自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表す	5	最初は保育教諭との関わりが多く、一人遊びが主だったので遊びの中で関わりが持てるように仲立ちをしたり言葉を掛けて少しずつ他者の存在に気がつけるようにした。
	語り掛けや歌い掛け、発声やなん語等への応答を通じて、言葉の理解や発話の意欲が育つ	5	読み聞かせや手遊びの時間を多く設け、言葉や発話に興味を持てるようにした。また子供の発話に対しても優しく応答することで安心して発話し言葉のやり取りが楽しめるよう関わっていった。
	温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える	4	まずは子どもの気持ちを汲み取って代弁し、受け入れることで本人のことを認め、自己肯定感が育つよう配慮した。
	(3) 精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」		
	身近な生活用品、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ	5	様々な玩具を日替わりで用意して子どもたちが飽きずに遊べるよう配慮した。遊びの中で保育教諭が使い方を伝えたり一緒に遊ぶことで興味を持てるようにした。
	遊びや生活の中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きを豊かにする	5	クレヨン・絵具・シール等様々な素材や、砂・葉・雪・草花等様々な自然物に触れる時間を設け、五感を刺激し感覚が豊かになるようにした。
一緒に様々な色や形のものや絵本などを見る	5	製作では様々な色の指紙やクレヨン・絵具など自分で選んでもらう時間を設け、色への興味を持てるようにした。遊びの中でパズルを用いることで、型を考える力・興味関心を高められるよう楽しみながら援助した。	
玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ	5	シールをつまむ、手を叩く、太鼓や鉄筋を叩く、エプロンを丸めるなど遊びや生活の中で様々な動作を指や手を使って行い、動きの発達にもつなげていった。	
あやし遊びに興味よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする	5	入園当初から歌や手遊びが好きで、ピアノや歌が聞こえると耳を傾けたり体を揺らす姿がよく見られたので、季節の歌を取り入れたりいろいろな手遊びを行い子供たちが楽しんで遊べるよう身振り手振りを大きく行った。	